

「台風一過の巻雲」

台風8号は、東京の人間にとってはまったく「人騒がせな台風」でした。「50年に一度の豪雨」だの「日本に今まで来襲した台風で最大級」だの、前評判はすばらしかったのですが、九州に上陸したあたりから急激に勢力が衰えました。しかし進路だけは、足摺岬・室戸岬・潮岬・御前崎・石廊崎・野島崎と、台風銀座を忠実に進む「優等生のような台風」でした。東京湾の入口まで来てもまた「台風」の名を維持していましたが、すでに台風のツラガマエはなく、私が今朝6時に江東区の自宅を出た時は、ほとんど無風ですでに陽がさしていました。(いや、一応台風の目に入っていたのかも知れません。)



「台風8号の進路」 台風銀座を忠実に進む「優等生」。

それでも学校というところは、子どもの安全を最優先に考えるので、いろいろ対策をたてなければいけません。本校でも前日にお知らせを出すやら、テンヤワンヤ（妖怪のなまえ）でした。幸い、本校では、給食をお弁当に変えただけで、平常通り授業ができましたが、近隣の小学校では臨時休校になったところもあったそうです。(こんなにいい天気なのに！)

台風が去ったあとの空模様を「タイフウィッカ」といいます。子どもたちに話す時は、黒板に漢字で書いてあげないと、「台風のお父さん、台風のお母さん、台風の妹・・・」となってしまう。私はこの「台風一過」の雲がとても好きです。今日も屋上に出て、子どもたちと観察してみました。(屋上は猛

烈な照り返しで、気温は 40°C 近くありました。だから観察は短時間でオワリ。)

台風一過の雲の特徴は、何と言っても巻雲の仲間です。巻雲・巻積雲・巻層雲は上空 10000 メートル付近に浮かぶ「上層雲」で、すべて氷晶で形勢されています。太陽光とのコラボレーションで、さまざまな大気光学現象を起こす雲でもあります。地上から 10km もの高さにあるのに、厚みはわずかです。国際線の飛行機に乗ると、機が巡航高度に達する直前に巻雲や巻積雲を突き抜けることがあります、それは本当に一瞬です。積雲や乱層雲の中を通過する時のような、不快な揺れもまったくありません。そのぐらい空気密度が低い場所に、ごく薄く分布する雲なのです。

巻雲は、地上から観察すると非常に美しい雲です。その巻雲にはいろいろな種類があり、今日も名前がわかるものだけでも数種類は出ていました。私が視認できたのは・・・

- ・ 鈎状 (かぎじょう) 巻雲 ; 巻雲の先端部が釣り針のように曲がっている巻雲。
- ・ 肋骨状巻雲 ; 中心から魚の骨のように左右に広がる巻雲。飛行機雲から発達することもある。
- ・ 濃密巻雲 ; まるで積雲のように濃密な一塊を形成する巻雲。しかし高度は 10km 付近。
- ・ 尾曳 (おびき) 巻雲 ; 刷毛ではいたような、典型的な巻雲。

このほかにも、一部巻積雲も見られました。巻雲・巻積雲・巻層雲などが混在する状態を「変化巻雲」と呼ぶこともあります。今日の台風一過は、「巻雲のデパート」でした。



「台風一過の巻雲」 2014 (H26),-7,11 お茶の水女子大学構内 撮影 ; 田中 千尋

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)